

韓国の前大統領の ご冥福を祈りながら思うこと

(2009年7月)

column5

北陸大学未来創造学部教授
李 鋼哲

韓国の盧武鉉（ノムヒョン）前大統領が、突然自殺したとのニュースを聞いて、驚きを禁じ得なかった。大統領が暗殺されたり、大統領経験者が刑務所に入ったり、裁判を受けたりすることは、韓国では今まで何度もあったので、盧前大統領が不正資金事件で取り調べを受けることまでは、普通だと思っていたが、自殺までしたのは今度がはじめてであり、世間を驚かせたのは間違いない。

故盧大統領に対して、私はわりと好意的に評価していた。なぜならば、彼が大統領就任後に、日本で出版された盧武鉉著『私は韓国を変える』（朝日新聞社2003年）という本を読んで、彼の庶民的でありながらも、立派な政治理念を持ったことに感銘を受けたからである。その前の金大中大統領も私がとつても尊敬する政治家であり、懐が深い偉大なリーダーだと思っていて、日本に比べると韓国には優秀なリーダーが続々と生まれるのだと、嬉しく見守っていた。

かつて盧大統領に私は大きな期待をかけていた。今から8年前、2001年に私は『東北アジア開発銀行』構想に関する政策研究に携わり、その成果としての政策提言をもって、同年7月29日に日本政府の内閣府を訪れ、福田康夫官房長官（当時）に面会し、小泉純一郎首相（当時）宛ての政策提言をブリーフィングしたことがある。

その年末に盧氏が大統領に選出され、翌年2月に就任したが、盧武鉉大統領は選挙公約では、大統領に当選されたら「東北アジア開発銀行」設立を推進することを約束していた。それを受けて、韓国ソウルで大統領を支持する政治家も含まれた東北アジアに関する学会で、2月20日に国際シンポジウムが開催され、そこに私が招かれ、日本で行った「東北アジア開発銀行」設立に関する研究報告をもって基調講演を行ったことがある。

私たちの研究チームが推進する、東北アジアの平和と繁栄に向けてのポジティブな考え方と、盧大統領（当時）の考え方がこの点では一致したので、私は盧大統領がそれを実現するためのイニシアティブを取ることを期待していたのである。

故盧前大統領は、その選挙公約を実現できなかったのは残念だが、彼は在任期間中に経験の不足から大変な苦勞をしたが、それにしても彼は韓国の政治構造や社会構造を変える上で重要な役割を果たしていると、私は高く評価している。盧大統領は韓国の民主政治を大きく前進させ、金権政治を改造することができたと思えるべきであろう。また、南北和解のために平壤訪問を金大中元大統領に次いで実現し、開城工業団地を中心とする南北経済交流や政治対話も一歩前進させた。

残念なことは、故盧前大統領は在任中に「東北アジア開発銀行」構想を実現に向けて前進させることはできなかったし、彼の著作で述べていた近隣の日本と中国との関係を大きく前進させることができず、逆に後退した感も否めない。彼は自分の著作で、「韓国は、長い間に大国のなかに挟まれて、「鯨（クジラ）の鬨いの中の海老」（諺）の地位を甘受するしかなかったが、これから韓国は「鯨の鬨いの中の海豚（イルカ）になり、大国の争いのなかで賢い仲裁者になる」と語っていた。つまり、周辺大国のなかで仲介的な役割を巧みに果たし、東北アジアの平和と繁栄の未来を切り開きたいとの意味であった。しかし、彼の在任中に、米国との関係が在韓米軍の削減問題も含めて信頼関係が後退し、日本とは竹

島(独島)問題で関係が悪化し、中国とは「東北工程」(高句麗歴史の帰属)問題で関係が悪くなったため、理想とは逆の方向で対外政治が動いてしまった。もちろん、これらの問題は盧前大統領だけの問題ではないと言っても、彼は柔軟で巧みな外交ができなかったのは明かであった。

私は2006年4～5月まで、韓国の対外経済政策研究院(KIEP)に1ヶ月ほど客員研究員として滞在したことがある。ちょうどその時期に、日本との間で竹島問題を巡って厳しく対立していた。そこで、盧武鉉前大統領はテレビ演説を行ったのだが、日本に対して厳しい対応をするよう韓国民に呼び掛け、日本を非難していた。その演説を聞いて、私はビックリした。日本に対して宣戦布告するような口調であったからである。日本との領土問題に対して、大統領として韓国民の意見を発表することは当然だと思うが、それにしても、一国の大統領が隣国との領土問題で「宣戦布告」のような演説を行うのは、一国の外交としては「大失敗だ」と私は当時から考えていた。このような問題は、外交部のスポークスマンや、外交部長レベルで行うべきであり、大統領までが隣国にこのような宣言を出すとなると、その後は日本との関係を改善する道が閉ざされてしまうのではないか、と思っていた。一国のリーダーたるものは、内政が重要なのは言うまでもないが、外交能力に欠けていたら、国益がダメージを受けることも知らないといけないと思う。

いずれにせよ、韓国の大統領がなくなったことに対しては亡霊の冥福を心から祈るが、大統領が自殺したということは、盧氏自身の精神力が弱いためだったかも知れないが、韓国社会の権力構造に問題があるのではないかと、私は考えている。